



# 子宮蓄膿症

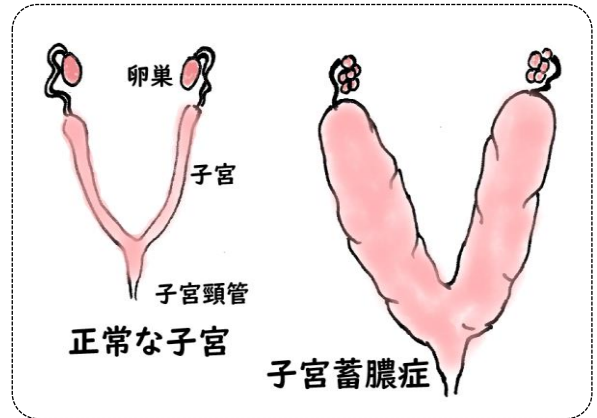


## どんな病気なの？

子宮内に細菌が入り込んで増え、中に大量の膿(うみ)がたまる病気です。

治療が遅れると全身状態が悪化し、最悪の場合子宮が破裂するなどして死亡することもあります。

避妊手術をしていない6歳以上のメス犬に多く発生します。猫でもまれに発生します。



## 原因は？

発情期に子宮頸管から入った細菌が子宮内で増えることで発生します。

発情後の子宮ではホルモンの影響で細菌を殺す白血球の働きが弱くなっているため、細菌が増えて子宮内に膿がたまっていきます。

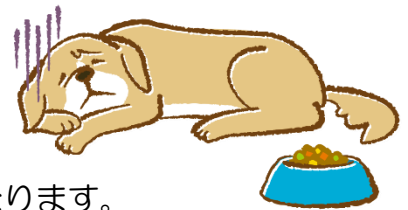
また、細菌が産生する毒素が全身に悪影響を及ぼします。

## どんな症状になるの？

発情出血開始からおよそ1~2か月後に元気消失、食欲低下、嘔吐、多飲多尿(水をたくさん飲み、多量の尿をする)などの症状がみられます。

外陰部から、血液の混じった膿が出ることもあります。

子宮頸管が閉じていて膿が出ない場合は、さらに症状が重くなります。



## どうやって診断するの？

X線検査や腹部エコー検査、血液検査などで判断します。

血液検査では、白血球の増加、貧血、肝臓や腎臓の数値の上昇、脱水などがみられます。

## どんな治療をするの？

膿のたまった子宮と卵巣をすべて手術で取り除く方法が一般的です。

全身状態が悪化している場合は、手術のリスクが高くなります。

## 予防できるの？

子宮蓄膿症は避妊手術により予防できる病気です。

繁殖させる予定がない場合は、早めに手術を受けておくと安心です。

